

本年度の 重点目標	『すべての教育活動をビジネスの視点で！』『感動溢れる学校づくり！』 『3 UP! TOYOSHO! (授業のUPデート、クリーンUP、モラルUP)』 ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 ・創立120周年に向けて 3 UP! TOYOSHO!		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項 (達成基準を含む)
P T A活動 (総務部)	効果的な防災訓練の 充実	地域の防災訓練にも積極的に 参加し、新しい形の防災訓練 が実施できるように取り組 む。	従来の防災訓練をアップデートできた。 A：ほぼ防災企画が改善ができた。 B：多くの防災企画が改善ができた。 C：約半分の防災企画が改善ができた。 D：あまり防災企画が改善ができなかった。
学習指導 (教務部)	授業のアップデー ト促進	授業参観週間等を利用し 相互の授業見学を促進す る。また、外部研修を利用 し、他校の先生の授業 を参観する。	授業見学、外部研修を受講しアップデートする。 A：全教員が授業のアップデートができた B：授業のアップデートができた教員が70%以上 C：授業のアップデートができた教員が50%以上 D：授業のアップデートができた教員が50%未満
生徒指導 (生徒サポート部)	交通マナーの向上と 交通ルールの順守	立番指導や交通マナーに関す る情報提供などを適宜行い、 通学マナー全般における意識 向上と注意喚起に努める。	自転車による通学のマナーを守らせる。 A：適切に利用できた生徒が80%以上 B：適切に利用できた生徒が65%以上 C：適切に利用できた生徒が50%以上 D：適切に利用できた生徒が50%未満
生徒会活動 (生徒サポート部)	生徒主体の生徒会活 動を通じて、メリハ リのある学校生活の 充実	生徒会執行部を中心として生 徒の意見を生かしながら、各 種行事の企画・改善を図る。	アンケート等を活用し、生徒の意見を集約する。 A：80%の行事が生徒主体で企画・改善できた B：65%の行事が生徒主体で企画・改善できた C：50%の行事が生徒主体で企画・改善できた D：35%の行事が生徒主体で企画・改善できた
教育相談 (教育相談部)	問題を抱える生徒の 早期発見と個々の生 徒への適切なサポー トの実施	教職員の連携と協力体制を構 築する。スクールカウンセラ ーやスクールソーシャルワ ーカーの効果的活用と外部機関 等との連携を強化する。	教育相談に関する様々な情報を発信し、正確な状況把握と分析に努める。 A：生徒自らが教員へ相談し、適切な対応ができた B：正確な生徒情報を把握し、サポートできた C：生徒情報のある程度把握し、傾聴できた D：上記A～Cが実践できなかった
保健・清掃指導 (保健厚生部)	歴史と伝統をかみし め、主体的に愛着と 快適さのもてる環境 づくりの実践	生徒会と委員会組織を主体と して、清掃活動の実践と評価 を図ることで、より清潔で安 全な環境づくりへの意識と実 践力を高める。	生徒と職員が連携して対応する。 A：ほぼ全員の生徒が気づき、実践した B：多くの生徒が気づき、実践した C：ほぼ半数の生徒が気づき、実践した D：少しの生徒が気づき、実践した
進路指導 (キャリアサポート部)	キャリア教育のさら なる充実と主体的な 進路実現に取り組む ことができる環境づ くり	教職員の連携と協力体制を構 築する。 外部機関とも連携、協力し、 適切な進路情報を収集する。 最新の進路情報を提供するた めに積極的に ICT を活用す る。	各学年と連携し、進路情報の積極的な活用を図る。 A：100%の生徒が進路情報の活用ができた B：75%以上の生徒が進路情報の活用ができた C：50%以上の生徒が進路情報の活用ができた D：進路情報の活用が50%未満
図書館活動 (図書館部)	図書館の利用促進の ための情報発信の実 施	図書館だよりやランキング 表、新刊案内等を Teams を通 して発信する。	図書館の利用促進のための情報発信を積極的に行う。 A：図書館活動の情報発信が100% B：図書館活動の情報発信が70%以上 C：図書館活動の情報発信が50%以上 D：図書館活動の情報発信が50%未満
情報管理・情報発信 (教育情報部)	生徒端末の県貸出 から個人購入への 移行に向けた対応 の検討	個人所有タブレットへの 移行によって変更される 管理や保守等について、 教員や生徒が困らないよ う迅速な情報提供や対応 の検討を行い、サポー ト体制の確立を目指す。	教員へ迅速な情報提供を行う。 A：教員への情報提供が90%以上 B：教員への情報提供が75%以上 C：教員への情報提供が50%以上 D：教員への情報提供が50%未満

商業教育 (商業科)	よりリアルに社会とつながる商業教育の推進	すべての科目において、学んだ知識が実社会でどのように活用されるかに焦点を当てた授業を展開する。	ビジネスの視点を明確にし、学びの質をUPする。 A：実社会とのつながりを意識した授業展開（100%） B：実社会とのつながりを意識した授業展開（75%以上） C：実社会とのつながりを意識した授業展開（50%以上） D：実社会とのつながりを意識した授業展開（50%未満）
グローバルビジネス科 グローバルコース	地域社会とつながるリアルな商業教育の実現	学校外の教育資源（地域・企業等）を積極的かつ体系的に指導計画へ取り入れた授業を展開する。	地域社会との連携授業を企画創造する視点をもつ。 A：連携授業に参加した生徒が100% B：連携授業に参加した生徒が75%以上 C：連携授業に参加した生徒が50%以上 D：連携授業に参加した生徒が50%未満
グローバルビジネス科 グローバルコース	ビジネスのグローバル化で必要とされる外国語及び経済の学力の定着	商業科と英語科で連携を取り、生徒の英語力向上に向けての授業改善を行う。外部講師講話を活用し、国際経済や国際課題についての深い学びを実現する。	授業改善を行う。 A：学習意欲が向上した生徒が90%以上 B：学習意欲が向上した生徒が70%以上 C：学習意欲が向上した生徒が50%以上 D：学習意欲が向上した生徒が50%未満
ITビジネス科	情報活用能力を備えビジネスで活用できる人材の育成	ITの知識を活用した実践的な授業の実現、インターンシップ等を利用し地元IT企業を通した学びを提供する。	実践的な授業実現、インターンシップを行う。 A：90%以上の生徒が実践的な授業に取り組み、15名以上がインターンに参加した B：70%以上の生徒が実践的な授業に取り組み、10名以上がインターンに参加した C：50%以上の生徒が実践的な授業に取り組み、5名以上がインターンに参加した D：実施できなかった
会計ビジネス科	簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材の育成	簿記会計能力の向上に向けて授業改善を行う。検定取得だけではなく、外部講師講話や発展的な教材を利用して深い学びを実現する。	授業改善を行う。 A：80%以上の生徒が検定を取得し、深い学びを実現できた生徒が100% B：80%以上の生徒が検定を取得した C：50%以上の生徒が検定を取得した D：実施できなかった
第1学年 (1年学年会)	学習や生活の目標を自ら考え、前向きに行動できる生徒の育成	学校の諸活動を通して、自己の目標を設定し、生徒が主体的に取り組めるよう働きかけを行う。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
第2学年 (2年学年会)	協調性や主体性を備えた生徒の育成	修学旅行や学校行事を通して「チーム力」や「主体性」を身に付ける機会を与え自主的に考えさせる。	自ら課題を設定して主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
第3学年 (3年学年会)	仲間と共に学び、自ら未来を切り拓くことのできる生徒の育成	仲間と共に学ぶ環境を整え、キャリアサポート部と連携をとり、担任面談等を活用して進路実現へのサポートをする。	進路実現に向けて主体的に進路先を調べる。 A：希望の進路を実現させた生徒が90%以上 B：希望の進路を実現させた生徒が80%以上 C：希望の進路を実現させた生徒が60%以上 D：希望の進路を実現させた生徒が60%未満
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件 B：いじめの重大事態が1件以内 C：いじめの重大事態が2件以内 D：いじめの重大事態が3件以上
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	公務等を削減して時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働80時間以上が0名 B：時間外労働80時間以上が3名以内 C：時間外労働80時間以上が5名以内 D：時間外労働80時間以上が6名以上